

東京都立 多摩総合医療センター

多摩総合医療センターとの連携

小平市医師会
会長 奥村 秀



皆さんこんにちは。小平市医師会会長の奥村です。多摩総合医療センターには、医療連携で大変お世話になっております。私自身も24年前眼科に勤務をしておりました。鶴岡先生と木曜日の朝から晩まで斜視から始まり、白内障、硝子体手術のお手伝いしていたのを懐かしく思い出されます。

小平市は人口19万人を超え、二次医療圏では北多摩北部に属します。中核病院の公立昭和病院を中心に合計8病院があり、また二次医療圏内では40病院を超えます。小平市医師会は正会員、勤務会員合計で207名になりました。医師会事業について少し説明させていただきます。小平市医師会応急診療所は365日オープン（平日は午後7時半から10時半、休祝日、年末年始、ゴールデンウィークは朝9時から午後5時、午後7時半から10時半）の内科、小児科の救急対応をしております。小平市民ばかりでなく近隣の市からも利用されています。公立昭和病院の救急医療に負担がかからないよう、患者さんを受け入れ入院が必要な場合、公立昭和病院、多摩総合医療センター、多摩北部医療センターなどをお願いしています。このように後方支援の病院があるということが大変重要になります。次に医師会の事業として在宅部があります。小平市在宅医療介護連携推進協議会が行政、地域包括支援センター、訪問看護ステーション、ケアマネジメントセンター、後方支援病院など多くの施設とのシームレスな連携を構築しています。年2回多職種連携研修会が開催され多くの医療従事者が参加されました。先日も公立昭和病院での多職種連携研修会が開かれ、オブザーバーも含め100名を超える方が参加されました。また現在、在宅支援センター設立のための準備委員会が定期的に開かれ30年4月の開業をめざしております。次に災害対策部についてお話しさせていただきます。毎年市内の病院の駐車場にトリアージテントを建てトリアージ訓練をしています。これには行政、三師会、訪問看護ステーションの職員、医師会事務職も含め100名前後が参加し、いざという時に備えています。

また医師会には訪問看護ステーション、ケアマネジメントセンターがあり総勢16名で在宅医療にも力をいれています。団塊の世代が75歳以上となる2025年を目途に、重度な要介護状態となっても住み慣れた地域で自分らしい暮らしを人生の最後まで続けることができるよう、住まい・医療・介護・予防・生活支援が一体的に提供される地域包括ケアシステムの構築を実現していきます。そのためにも地域の多職種の方々との連携が益々必要となってきています。いわゆる“顔の見える連携”気軽に電話が相互にできる連携を目指しています。認知症高齢者の増加が見込まれることから、認知症高齢者の地域での生活を支えるためにも、地域包括ケアシステムの構築が重要です。これからは人口減少の時代と言われていますが、東京近郊ではまだまだ人口増加が見込まれ外来患者さんもまだ増えているようですが、今から各医療機関で準備をする必要があるように思います。医師会の病院部は、現在公立昭和病院、国立精神・神経医療研究センター病院から一人ずつ理事になっていただいています。病院も医師会活動に参加していただき、また開業医も病院の連携会等に参加し相互の交流を大切に、顔の見える連携の構築に大変役立っています。昔は病院対開業医という関係だったようですが、小平では早くから病院の先生方に理事になっていただき交流を深めてきました。医療従事者が一丸となって初めて地元の医療に貢献できると歴代の会長から教えられてきました。これからも多摩総合医療センターとの連携をさらに深め紹介、逆紹介がスムーズにいくよう願っております。どうぞよろしくお願いいたします。



診療放射線科のご紹介



診療放射線科部長 喜多 みどり

診療放射線科は医師8名(常勤3名、常勤的非常勤5名)、放射線技師48名(常勤33名、非常勤15名)、看護師6名、事務8名からなる大所帯です。

主な業務は画像診断、放射線治療、核医学検査に大きく分かれ、種々の画像診断を適切に実施するとともに診断報告書を作成することや癌の放射線治療を担っております。

画像診断・IVR部門

主要な放射線機器をご紹介しますと、CT4台(1台はER用としています)、MRI2台(1.5T、3T)、血管撮影装置2台、心カテ2台がフル稼働しています。その他、FPD一般撮影装置5台、乳房撮影装置1台、骨密度測定装置1台、パントモ1台、ポータブルX線装置11台を有しています。院内の依頼だけでなく院外からの検査依頼にも応じています。平成27年度のCT検査数は34754件、MRIは9124件であり、年々増加傾向にあります。

診断医師数が少なく、すべてのCT・MRI検査に報告書が作成できない現状ですが、平成27年度では34049件の報告書を作成しています。必要に応じ各科の先生からの画像のご相談にも応じております。また、レジデントの教育や予定および緊急時のIVRにも対応しており、当院での適切な画像診断の実施と正確な診断の報告に健闘しております。

放射線治療

リニアック2台、位置きめ装置(CT付)、RALS1台が稼働しています。平成27年度の新患数は641名で、照射件数は823件でした。

原発巣では乳癌が45%を占め、ついで肺がん19%、頭頸部がん8%、婦人科がん6%、血液・リンパ系腫瘍5%となっております。骨転移や脳転移などの緩和医療も150件程度行っています。

隣の都立小児総合医療センターでの小児悪性腫瘍の放射線治療も当院で実施しており、平成27年度の15歳以下の放射線治療患者数は15人でした。小児に対する放射線治療は鎮静などの前処置を有することも多く、小児科医との連携が必要な分野です。

患者数が多く常勤医が1人のため、IMRT(強度変調放射線治療)や定位放射線治療が実施できないのが残念ですが、必要に応じて他院をご紹介します。

2症例を提示させていただきます。(症例1、2)

核医学検査

シンチカメラ2台が稼働しています。骨シンチグラム、心臓核医学検査、脳血流検査等が一般的ですが、各種ホルモン依存性腫瘍の検査も行っています。心臓核医学検査を除いて、非常勤の核医学専門医が報告書を作成しています。

アイソトープ治療では甲状腺機能亢進症に対する¹³¹ヨード内服療法や、骨転移に対するストロンチウム療法を行っています。来年度は悪性リンパ腫に対するゼパリン・イットリウムと内分泌不応性前立腺がん骨転移に対する塩化ラジウムの治療を実施予定です。

症例1 82歳 喉頭がん T2N0M0(Ⅱ期)

嚥声を主訴に受診し、前交連から左仮声帯に広がる扁平上皮癌と診断された。66Gy/33回/48日照射後、5年経過しているが再発なく健在である。



①照射前



②20Gy



③54Gy



④66Gy終了時



⑤66Gy照射後1週間

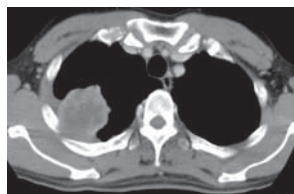


⑥照射終了1ヵ月後

症例2 51歳 男性 肺がん T3N0M0(ⅡB期)

検診で胸部異常影を指摘され、精査の結果、右上肺の腺癌の診断となる。

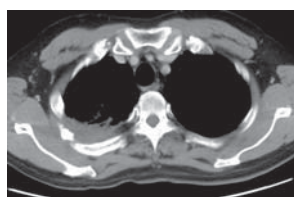
同時化学放射線療法CCRT(Concurrent Chemo-Radiotherapy)としてCDDP+CPT-11(2コース)および原発巣に対する放射線治療66Gy/33f/48dが実施された。治療後7年、再発なく健在である。



①治療前



②治療終了1ヵ月



③治療後7年





高用量インスリン治療中の高度肥満2型糖尿病に減量手術を施行し、著明な減量とインスリン離脱に至った1例



内科（内分泌代謝）医員 佐藤 文紀

【症例】40歳代、男性

【職業】会社員（IT関連）

【病名】#1. 2型糖尿病（単純網膜症）、#2. 高度肥満症

【現病歴】37歳時に初めて糖尿病（HbA1c 10.3%）と診断され、グリメピリドが開始された。42歳時にはHbA1c 13.4%でインスリン導入。その後も通院は不定期で、メトホルミン1500mg、ついでピオグリタゾン30mgが追加されたが、HbA1cは10%超で推移。体重は110kg超となり、かかりつけ医から減量手術目的で紹介、入院3か月前に減量外科外来、ついで内分泌代謝内科外来を初診。

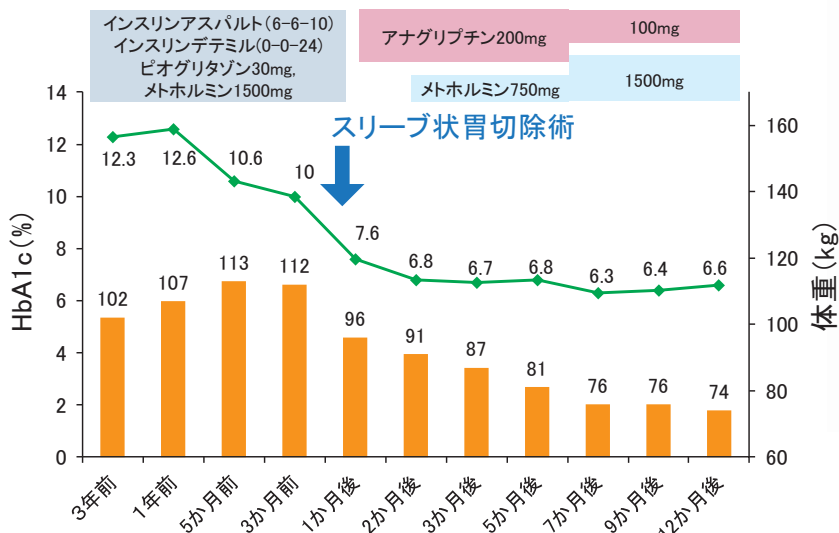
【術前経過】初診時、身長172cm、体重112kg、BMI 37.9、インスリン総量46単位/日、HbA1c 10.0%であった。その後、管理栄養士による栄養指導、循環器科による睡眠時無呼吸のスクリーニング、臨床心理士による心理テスト、カウンセリング、精神神経科によるパニック障害の評価、理学療法士による運動指導を施行。入院2週間前には体重106kg（初診時から5.4%減）となり、肥満症治療チームで手術を決定し、麻酔科を受診。2015年X月、内分泌代謝内科に入院、1500kcal制限、インスリン量を調整しつつ、理学療法士による術後リハビリテーションの指導、管理栄養士による術後栄養摂取の指導を行った。入院2週間で、経口血糖降下薬は中止し、外科転科、スリーブ状胃切除術を施行。

【術後経過】術翌日から流動食摂取を開始（Step1）。術直後よりインスリンは中止となった。術後4日目にドレーン抜去、術後8日目に退院。術後2週間で半固形食開始（Step2）、術後4週間で固形食開始（Step3）。術後1か月にはHbA1c 7.6%となり、アナグリプチン200mgを開始、術後2か月にはHbA1c 6.8%となり、メトホルミン750mgを追加した。早食い習慣が戻ると嘔吐する傾向があったため、管理栄養士による栄養指導を必要とした。当院では、術後患者による患者会（サポートグループ）を支援しており、臨床心理士がコーディネーターとなっている。術後12か月で、アナグリプチン100mg、メトホルミン1500mg内服によりHbA1c 6.6%と良好な血糖コントロールを維持している。

【考察】2014年にスリーブ状胃切除術が保険収載となり、東京都内では当院が初めて本治療の認定施設となった。当院では、減量外科（清水英治医長、畑尾史彦医長）および内分泌代謝内科を軸に多職種から構成された肥満症治療チームによる減量手術治療を行っている。2017年1月現在、41例に減量手術を施行し、うち13例が糖尿病症例である。本症例を含め、高用量インスリン治療中の高度肥満2型糖尿病患者7例全例でインスリン離脱し、良好な血糖コントロールを達成している。手術適応は、19～65歳、BMI 35以上かつ肥満に起因する健康障害を有する症例（病的肥満症）である。糖尿病に対する優れた治療効果から、減量手術から代謝手術としての位置付けも進みつつある。

●40代男性（会社員）

糖尿病罹病期間10年間、身長172cm、体重112kg、BMI 37.9



スリーブ状胃切除術
（日本肥満症治療学会 HP より引用）



●● 各種講習会・勉強会のご案内(医療従事者向け) ●●

第87回医療連携臨床懇話会

平成29年3月16日(木)午後7時～午後9時 4階401会議室

- 「最近の麻酔－笑気、マッキントッシュ喉頭鏡は過去の物？」麻酔科部長 貴家 基
- 「慢性に経過する消化器疾患の診かた」消化器内科 医員 下地 耕平

※演題等に変更がある場合がございます。詳細は別途ご案内いたします。

公開CPC

平成29年3月16日(木)午後6時～午後7時 4階401会議室

●● 各種講習会・勉強会のご案内(患者さん向け) ●●

※参加無料、事前予約不要です

糖尿病講習会 (会場：都立多摩総合医療センター講堂フォレスト)

- 「糖尿病神経障害」「フットケアについて」「食事の自己評価方法」

日時：平成29年3月15日(水)午後2時から午後4時

都立多摩総合医療センター 人事異動

【採用】平成29年1月1日付

リウマチ膠原病科医員

喜瀬 高庸

【転出】平成29年1月1日付

リウマチ膠原病科医員

永井 佳樹



当院は原則として、**紹介予約制**です。
外来及びCT、MRI検査は必ず予約を取り、
紹介状をお願い致します。

<電話予約センター>

月～土 受付時間 午前9:00～午後5:00

TEL : 042-323-9200

ご意見、ご投稿、お問い合わせは
医療連携担当(内線2171)まで

<FAXによる診療予約>

月～土 受付時間 午前9:00～午後5:00

FAX : 042-323-9205

緊急の場合…必ず事前にご連絡ください

代表電話：042-323-5111から、①平日の午前9時～午後5時は「〇〇科責任医師」、②午後5時以降、土曜日、日曜日及び祝祭日は「〇〇科の救急担当医」とお申し付けください。

※一部の診療科では、夜間・休日は専門医がおりませんので診療できない場合があります。

※受診が決まった場合は、患者さんに紹介状(診療情報提供書)をお渡しください。

東京都立多摩総合医療センター 〒183-8524 東京都府中市武蔵台2-8-29
TEL 042-323-5111(代表)

